

2024年度

# さかい福祉と介護の 実践発表会

令和6年11月16日(土)

関西大学 堺キャンパス  
〈オンライン同時開催〉

主 催

堺市・関西大学・堺市老人福祉施設部会

後 援

大阪府社会福祉協議会・堺市社会福祉協議会



# 2024年度 さかい福祉と介護の実践発表会 プログラム

令和6年11月16日(土)

関西大学 堺キャンパス オンライン同時開催  
企画分担者 関西大学人間健康学部 教授 植田 紀美子

挨拶

堺市 健康福祉局 長寿社会部 部長 佐野 庸子  
堺市老人福祉施設部会 会長 西尾 正敏

特別  
講演

演 題 「多世代での合同防災訓練～楽しく人材育成～」  
発表者 堺市老人福祉施設部会 合同防災訓練プロジェクトチーム  
常任委員 梶山 尚也  
関西大学自主防災組織 島尾 拓実

## ◆高齢分野 (SB301 教室)

### 第1部 市内福祉現場で働く職員による実践発表会 (13:00-15:30)

	法人名	発表者	演題名
演題1	社会福祉法人 上神谷福祉会 特別養護老人ホーム 榎塚荘	チャソティタノヒエン 上原 栄里奈	シンチャオ! 信頼される介護職をめざして
演題2	社会福祉法人 堺福祉会 特別養護老人ホーム ハートピア堺	二宮 恵美 西村 可奈子	看取りケアの見直しの過程で気づいた 介護職の心身ストレス緩和の必要性について
演題3	合同会社 N-art N-art訪問看護ステーション	藤井 陽	当ステーションにおけるスタッフ教育の挑戦
演題4	社会福祉法人 美木多園 特別養護老人ホーム 美樹の園	今岡 尚樹 高塚 亜希子	職員の声から生まれた “THE BEST ユニフォーム”
演題5	株式会社 Merry Care メリーケアサービス	麓 眞知子	元気な高齢者を介護の人材に
演題6	社会福祉法人 悠人会 特別養護老人ホーム ベルライブ	菅 正樹	難治性褥瘡に対する多職種連携での取り組み
演題7	社会福祉法人 みささぎ会 高齢者ケアセンター 大仙もずの音	柴田 麻友 廣瀬 武則	その人らしい暮らしの実現 ～主訴実現プロジェクト～
演題8	社会福祉法人 東光学園 中第2地域包括支援センター	細川 友莉	今までのつながり、これからのつながり ～見守り活動の今後について～

### 第2部 表彰式 (15:30-16:00)

- ・ 講評
- ・ 事業所表彰、職員表彰

## ◆障害分野 (SB302 教室)

### 市内福祉現場で働く職員による実践発表会 (13:00-16:00)

	法人名	発表者	演題名
演題1	社会福祉法人 堺あけぼの福祉会 楽「あけぼの」	中辻 雅利	『A.L.E』(Akebono! Lift! Enjoyment!) 堺あけぼの福祉会での移乗・介助用リフトを 使った実践とその目的
演題2	社会福祉法人 ライフサポート協会 はびな	井上 真人	「自分で決める、自分の未来」 ～自分の事は自分で決める、その意思決定を 尊重し、サポートします～
演題3	社会福祉法人 堺あけぼの福祉会 絆「あけぼの」	柴田 正明	やる気、達成感、笑いを引き出す支援
演題4	一般社団法人 CareOfficeNagata 重心型児童発達支援・放課後等 デイサービス GREENHOUSE	長田 孝士	外遊びと社会性の獲得 ～公園のルールに大人は立ち入れない!～
演題5	社会福祉法人 堺あけぼの福祉会 絆あけぼの	谷口 東吾	重度重複の方々の自己選択と 社会性向上についての取り組み
演題6	社会福祉法人 堺あけぼの福祉会 堺あけぼの園	成山 裕悟	強度行動障害がある利用者様と EnjoyCommunication!
講 評			

# 目次

## 《特別講演》

テーマ：人材育成部門／人材育成のための取組

- 多世代での合同防災訓練 ～楽しく人材育成～** 1  
堺市老人福祉施設部会 合同防災訓練プロジェクトチーム

## 《高齢分野》

テーマ：人材育成部門／人材育成のための取組

- シンチャオ!信頼される介護職をめざして** 3  
社会福祉法人 上神谷福祉会 特別養護老人ホーム 槇塚荘

テーマ：人材育成部門／離職防止、定着促進に向けた取組

- 看取りケアの見直しの過程で気づいた  
介護職の心身ストレス緩和の必要性について** 4  
社会福祉法人 堺福祉会 特別養護老人ホーム ハートピア堺

テーマ：人材育成部門／人材育成のための取組

- 当ステーションにおけるスタッフ教育の挑戦** 5  
合同会社N-art N-art訪問看護ステーション

テーマ：人材育成部門／働きやすい職場環境のための取組

- 職員の声から生まれた“THE BEST ユニフォーム”** 6  
社会福祉法人 美木多園 特別養護老人ホーム 美樹の園

テーマ：人材育成部門／人材育成のための取組

- 元気な高齢者を介護の人材に** 7  
株式会社Merry Care メリーケアサービス

テーマ：サービスの質の向上部門／要介護度の維持・改善のための取組

- 難治性褥瘡に対しての多職種連携での取り組み** 8  
社会福祉法人 悠人会 特別養護老人ホーム ベルライブ

テーマ：サービスの質の向上部門／利用者個々の個性や生活リズムを尊重した取組

- その人らしい暮らしの実現 ～主訴実現プロジェクト～** 9  
社会福祉法人 みささぎ会 高齢者ケアセンター 大仙もずの音

テーマ：サービスの質の向上部門／

地域（外部）の視点を取り入れるなど、更なる質の向上のための取組

- 今までのつながり、これからのつながり  
～見守り活動の今後について～** 10  
社会福祉法人 東光学園 中第2地域包括支援センター

## 《障害分野》

テーマ：その他（ケアとレクリエーション）

**『A.L.E』 (Akebono! Lift! Enjoyment!)** 11  
**堺あけぼの福祉会での移乗・介助用リフトを使った  
実践とその目的**

社会福祉法人 堺あけぼの福祉会 楽「あけぼの」

テーマ：その他（意思決定支援）

**「自分で決める、自分の未来」** 12  
**～自分の事は自分で決める、その意思決定を尊重し、  
サポートします～**

社会福祉法人ライフサポート協会 はびな

テーマ：創作的活動や生産的活動

**やる気・達成感・笑いを引き出す支援** 13

社会福祉法人 堺あけぼの福祉会 紬「あけぼの」

テーマ：その他（外遊びと社会性の獲得）

**外遊びと社会性の獲得** 14  
**～公園のルールに大人は立ち入れない!～**

一般社団法人 CareOfficeNagata

重心型児童発達支援・放課後等デイサービスGREENHOUSE

テーマ：その他（外出活動）

**重度重複の方々の自己選択と社会性向上についての取り組み** 15

社会福祉法人 堺あけぼの福祉会 絆あけぼの

テーマ：その他（利用者への支援について）

**強度行動障害がある利用者様と** 16  
**EnjoyCommunication!**

社会福祉法人 堺あけぼの福祉会 堺あけぼの園

## 特別講演

テーマ：人材育成部門／人材育成のための取組

# 多世代での合同防災訓練 ～楽しく人材育成～

堺市老人福祉施設部会 合同防災訓練プロジェクトチーム  
常任委員 梶山 尚也／関西大学自主防災組織 島尾 拓実

### ●事業所・サービスの紹介

堺市内56施設が加盟する団体。堺市における老人福祉サービスの充実及び発展を図り、老人福祉施設相互の交流を深め、老人福祉施設の質の向上に努めることを目的としている。

### ●発表の要旨

#### 【取り組んだ課題】

地域で支え合う社会の実現をめざし、施設内スタッフの人材育成だけでなく、多世代でこれからの社会について考えていく必要性について考察する。

#### 【具体的な内容】

1. 部会の紹介 1992年に発足した堺市老人福祉施設部会 定例会を通じ、行政・府社協との情報交換を行う
2. 2023年に行った会員施設合同での防災訓練の紹介
3. 考察 多世代の意義 楽しく人材育成をすることの意義

#### 【取組の成果】

堺市内唯一の介護福祉士養成校である学校法人みどり学園（大阪健康福祉短期大学）との連携協定に基づき、関西大学、桃山学院高等学校と協働し、近年高まりを見せる防災についての企画・訓練実施を行った。  
その過程で、学校連携・行政（堺市・消防署）と協働することで地域において協働できる関係性を構築し、防災 訓練を通じて交流し、その後の勉強会において、多世代でこれからの社会について語り合う場を持つことができています。  
これらの活動を通じ、地域共生社会の構築に向けたリーダーシップを発揮する福祉人材の育成を進めていく。

#### 【参考数値】

2023年12月10日 合同防災訓練 50名の参加  
2024年12月 1 日 合同防災訓練実施予定





# 《高齡分野》



テーマ：人材育成部門／人材育成のための取組

# シンチャオ!信頼される介護職をめざして

社会福祉法人 上神谷福祉会 特別養護老人ホーム 槇塚荘  
介護職員：チャン ティ タン ヒエン／介護支援専門員：上原 栄里奈

## ●事業所・サービスの紹介

73名のご入居者さま、10名のショートステイご利用者さま、計83床の特養です。ユニットケア型と従来型のフロアがご選びいただけます。ノーリフトケアに力を入れており、双方に負担の少ない介護をめざしています。

## ●発表の要旨

### 【取り組んだ課題】

- ・ベトナム人介護職員に対して、初めての苦情を頂戴する。原因と対策を考える。
- ・6人の職員それぞれの『コミュニケーションの課題』を明確にし、小さな目標と具体的方法を考える。
- ・自分自身の取り組みを自分で評価し、フロアチーフには客観的に評価してもらう。

### 【具体的な内容】

- ・留学生担当者がベトナム人介護職員と面談をおこない、それぞれの課題と目標を設定。
- ・日本語練習の時間を作ることができない。それなら業務中に使えるようなロールプレイングカードを作成、使用。
- ・フロアチーフからの評価を本人たちに伝える。
- ・新たな目標設定を行う。

### 【取組の成果】

きっかけはご利用者さまからの苦情。「何を言うてるかわからへん。私の言いたいことも聞いてくれへん。どうなってるんや。」同時に、日本人職員からも「どうしたらいいのかわからない」と相談を受けた。「ベトナム人職員が2人以上集まると、ベトナム語で話すので何を話しているか分からず、注意もしにくい。」そこで、まず通訳の方に協力いただき、なぜ勤務中にベトナム語ではなく、日本語で話す必要があるのかを理解してもらうことから始めた。これまでも業務には真摯にとりくんできた6人なので、日本語を使おうと努力するだけで、職員からの印象は好転する。また、日本語レベルが6人それぞれ違うので、個人に合わせた目標設定をし、ロールプレイングカードを作成した結果、業務の中でそれを使用することができた。最初はカードを読むことから始め、カードを見なくても正しい日本語でインカム連絡やコミュニケーションを行うことをめざす。ご利用者さまへの傾聴から逃げず、家族対応にも今後はチャレンジしてほしい。彼女らがめざす、信頼される介護職とは何かを考えることができた。

テーマ：人材育成部門／離職防止、定着促進に向けた取組

# 看取りケアの見直しの過程で気づいた 介護職の心身ストレス緩和の必要性について

社会福祉法人 堺福祉会 特別養護老人ホーム ハートピア堺  
介護福祉士：二宮 恵美／生活相談員：西村 可奈子

## ●事業所・サービスの紹介

特別養護老人ホームハートピア堺は、堺区三宝校区にある100床の施設です。デイサービス・ホームヘルパー・ケアマネジャーの事業所を併設し、地域とゆるくつながりながら、皆様と共にこれからの福祉介護を進めていきます。

## ●発表の要旨

### 【取り組んだ課題】

看取りケアを進めてきたが、自施設内では看取りになってから行う特別なケアのような意味合いが強くあり、これでいいのかという思いがあった。また、これで良かったと思えることが少なく、知らず知らずのうちに抱えているストレスへの対応を課題とした。

### 【具体的な内容】

- ・自分たちの看取りに対する思いを言語化し、自己覚知を促すため、看取りケアに対する対話型の研修を行った。
- ・宗教学の専門家として、講師の関西大学村川教授に教えて頂いた。
- ・その上で、ハートピア堺式看取り介護を新しく考え、看取りケアマニュアルの見直しをすることとした。

### 【取組の成果】

- ・看取りケアについて、医療モデルと介護モデルの違いを考察し、ご本人の思い・ご家族の思い・スタッフの思いを繋いでいくことに思い至った。また、看取りケアに関わる全ての人の精神的負担については、上手く「手放す」ことが必要であることを理解した。
- ・「手放す」ために、看取り介護マニュアルを見直し、チェックリストに基づいて看取りケアプランを作成すること、振り返りシートを用いることになった。新しい看取りケアをスタートさせた。
- ・福祉以外の専門の方に教えていただくことで、視野が広がり、解決の糸口を見いだせた。

## 【参考数値】

看取り件数 令和3年度9件・令和4年度9件・令和5年度9件・令和6年度（4～9月）7件

テーマ：人材育成部門／人材育成のための取組

# 当ステーションにおけるスタッフ教育の挑戦

合同会社N-art N-art訪問看護ステーション

看護師：藤井 陽

## ●事業所・サービスの紹介

2020年から堺区でサービスを開始しております。救急看護をしていたスタッフが多く在籍し、管理者は褥瘡の認定看護師と専門性に特化しています。365日夜間帯も対応可能な断らないステーションです。

## ●発表の要旨

### 【取り組んだ課題】

当ステーションでの新人・新任スタッフ教育について、計画的かつ個別対応を重視した教育体制を整えています。教育プログラムや動画研修を活用し、スタッフ一人ひとりの成長を支援する仕組みを構築しています。

### 【具体的な内容】

大阪府訪問看護ステーション協会の教育プログラムやeラーニングを導入し、N-art独自の教育プログラムを基に個別計画を策定しています。スタッフの成長に応じた利用者選定や同行訪問を行い、技術向上をサポートしています。模型を使った技術練習も取り入れることで自信を持ってケアをできるよう環境づくりに取り組んでいます。また、教育担当者を個別に選定し、定期的な面談を実施し、教育計画の修正を適宜行います。独り立ち後も他スタッフとの同行訪問を通じて悩みを共有し、サポート体制を整えています。

### 【取組の成果】

教育担当を決めることでこまめな面談によりスタッフの成長や悩みを把握し、教育方針を柔軟に修正でき、知識や技術の評価、精神的フォローを行い、看護の質の向上に繋がります。病院業務とのギャップを徐々に克服し自信を養うことができます。またステーション協会の研修やeラーニングの活用により業務負担が軽減しました。

テーマ：人材育成部門／働きやすい職場環境のための取組

# 職員の声から生まれた “THE BEST ユニフォーム”

社会福祉法人 美木多園 特別養護老人ホーム 美樹の園  
介護職：今岡 尚樹／生活相談員：高塚 亜希子

## ●事業所・サービスの紹介

堺市の南部に位置し、泉北・光明池ニュータウンに隣接。湖畔に建ち四季の移り変わりが楽しめる自然豊かな環境です。特養・老健・グループホームの3施設があり、各施設で通所サービスとショートステイを行っています。  
その他ケアプラン作成と、高齢者に住居をご用意する事業も実施しています。

## ●発表の要旨

### 【取り組んだ課題】

ポロシャツ以外のユニフォームは、主に外出時用の厚手のジャンパーと、薄手のブルゾンのみでした。肌寒い時に羽織りながら介助できる、ちょうど良いユニフォームがなかったため、ポロシャツの中に着こむか、各々で用意したカーディガンなどを羽織っていました。着こむと勤務中の着脱が容易ではなく、各々で用意した羽織りものでは統一感がなく、ご家族や地域の方が見るとバラバラな印象になっていたことが課題でした。

### 【具体的な内容】

職員の声を受け、業務効率化検討会議の中で、介助する時にも羽織れる新たなユニフォームを製作すべく、「制服プロジェクト」を立ち上げました。  
デザインは全職員から募集し、投票で決定しました。またアンケートで生地や仕立て等の希望も取り入れながら進めました。ユニフォームを製作してもらえる会社を探し、型紙作りや生地選びなど、完全に0からのスタートで、こだわりを一杯詰め込んだオリジナルの製作に取り組みましたが、費用や仕様の面で妥協せざるを得ませんでした。軌道修正しながらも随所にこだわりを残しつつ、およそ2年の歳月を経て完成させました。

### 【取組の成果】

職員が自由に意見を出し合って創りあげていく過程は貴重な体験でした。今までバラバラの羽織りものを身に着けていましたが、統一したユニフォームができたことで、一体感、チーム感が高まりました。伸縮性に富み介助しやすく、気温に合わせて着脱しやすいと、製作前に新しいユニフォームを希望していた職員は全体の2/3くらいでしたが、完成後はほぼ全ての職員が支給を希望しました。また遠くからでも美樹の園のロゴが分かりやすいとご家族からも好評でした。今後は地域に出かける際にもこのユニフォームを着用することにより、PR効果を期待しています。

### 【参考数値】

発注部数200枚 1枚価格8,500円

テーマ：人材育成部門／人材育成のための取組

## 元気な高齢者を介護の人材に

株式会社Merry Care メリーケアサービス

代表取締役：麓 眞知子

### ●事業所・サービスの紹介

2017年堺市中区にて訪問介護サービス事業を開始。現在中区、南区、北区、東区、堺区にて担い手登録型及び訪問介護、介護予防訪問サービスを展開。「元気な高齢者を介護事業の働き手に」を掲げ、50代、60代、70代の介護未経験者が軽微な家事支援を担うことで、介護現場の人手不足を補いたいと人材育成に励んでいる。

### ●発表の要旨

#### 【取り組んだ課題】

資格取得支援：堺市の生活援助サービス従事者研修の周知、受講者募集案内、研修テキスト作成、講座運営、研修後の働きかた案内、登録案内、採用と指導、実践  
ステップアップ支援：初任者研修受講・実務者研修受講・介護福祉士受験

#### 【具体的な内容】

人材募集：堺市の生活援助サービス従事者研修のチラシ配布やミニコミ誌等での広報活動  
研修終了後の就労支援：事業所登録支援  
採用後の育成：同行実践指導、ライン・電話等での適時指導  
ステップアップ支援：研修受講案内とサポート

#### 【取組の成果】

受講生の増加：チラシ配布数の増加、配布個所の増加、広報活動（堺市広報、地域誌、機関紙等）  
事業所登録者数の増加、採用者数の増加、ステップアップ者数の増加  
介護業界で働きたい人材枠が拡大：元気な高齢者以外に子育て世代やダブルワーク希望者の受講が増えた

#### 【参考数値】

令和5年度研修実績：研修回数4回、受講者37名、登録希望者16名

登録希望者の平均年齢51.6歳

ステップアップ実績（3年間）：初任者研修：終了者3名、受講希望者2名

実務者研修：終了者1名、受講希望者1名、介護福祉士受験希望者1名

テーマ：サービスの質の向上部門／要介護度の維持・改善のための取組

## 難治性褥瘡に対しての多職種連携での取り組み

社会福祉法人 悠人会 特別養護老人ホーム ベルライブ

看護師：菅 正樹

### ●事業所・サービスの紹介

入居者の意思を尊重し、施設サービス計画に基づき、その人らしく生活が継続できるよう努めている。また専門職種の連携により全人的なケアを実施すると共に、入居者一人ひとりの歴史を理解し必要な時に必要なケアを提供している。各ユニットにおいて入居者が相互に社会関係を築き、自律的な日常生活を営むことができるよう支援する。

### ●発表の要旨

#### 【取り組んだ課題】

- ・難治性褥瘡に対して、多職種連携し、多角的な対策の立案
- ・外科的治療を行わず、褥瘡に対しての原因追求、対策を行うことで、褥瘡の治癒をめざす

#### 【具体的な内容】

- ・複数個所のポケット形成した難治性の褥瘡に対し、多職種連携し、対策を立案し、ケアをおこなった。
- ・その結果、外科的治療なしで、褥瘡を治癒させることができた。
- ・褥瘡発生から治癒までの期間が長く、治癒と増悪を繰り返しながらも、多職種で原因を追求し、多角的に対策を立案したため、難治性褥瘡も治癒させることができた。

#### 【取組の成果】

- ・褥瘡の治癒 本人様への負担の軽減
- ・多職種連携の強化
- ・ケアの統一
- ・カンファレンス、情報共有の重要性の認識



テーマ：サービスの質の向上部門／利用者個々の個性や生活リズムを尊重した取組

## その人らしい暮らしの実現 ～主訴実現プロジェクト～

社会福祉法人 みささぎ会 高齢者ケアセンター 大仙もずの音  
介護士サプリーダー：柴田 麻友／介護士フロアリーダー：廣瀬 武則

### ●事業所・サービスの紹介

平成24年12月に開設。特養80床、ショートステイ20床、デイサービス、ケアプランセンターを併設。利用者のやりたいことを叶える主訴実現を行っており、外食レクや1泊旅行などの外出支援を行っています。

### ●発表の要旨

#### 【取り組んだ課題】

- ・その人らしい暮らしの継続をめざす中で、コロナ禍においては、ご本人不在でケアカンファレンスが行われており、日々の生活の中で利用者の思いを聞く機会を作れていなかったことが一つの課題でした。
- ・コロナ禍で面会がなくなり、外出支援ができず、閉鎖的な生活になり心の安定が図れていないこともありました。利用者のやりたいことを叶える自己決定のためには何ができるのかをカンファレンスを通じて利用者と共に考えていきました。

#### 【具体的な内容】

- ①本人参加のケアカンファレンスを実施
- ②医療的ケアや食事形態の調整が必要な方の外出支援に向けて他職種と連携
- ③外出支援を実施

#### 【取組の成果】

- ①カンファレンスを通じてご本人の思いの聞きとりができた。
- ②主訴の実現＝外出に捉われすぎているので、普段の生活の中で実現できるご本人のこだわり（生活習慣）を理解し、継続することが課題である。
- ③成功体験を通じて、介護者自身のできることが増え、自信に繋がった。
- ④その人らしい暮らしの実現を継続していくためには、家族との信頼や協力関係が重要であることを再認識できた。

テーマ：サービスの質の向上部門／地域（外部）の視点を取り入れるなど、更なる質の向上のための取組

## 今までのつながり、これからのつながり ～見守り活動の今後について～

社会福祉法人 東光学園 中第2地域包括支援センター  
社会福祉士：細川 友莉

### ●事業所・サービスの紹介

2か月に1回、土師校区周辺の薬局、デイサービス、介護施設、居宅介護支援事業所の決まったメンバーが「土師校区あったかサロン」に参加することで、サロンに来てくださっている元気な方々と「顔の見える関係性」を構築しています。

### ●発表の要旨

#### 【取り組んだ課題】

総合相談に上がってくる困りごとの早期発見、早期解決を目的とした、協議体作り

#### 【具体的な内容】

「土師あったかサロン」は、毎週水・木曜日に土師自治会館を開放し、誰でも淹れたてのコーヒーとお菓子を楽しむことができる集いの場です。性別問わず、たくさんの方が参加しています。中第2圏域の見守り事業所交流会を開催していく中で、課題に上がった「本当に困っている人々を見守ることができていない（踏み込めていない）」という地域の民生委員の悩みと、「堺市高齢者見守りネットワークに登録をしたものの実際地域がわからず、何をしてもいいか具体的にわからない」という事業所の悩みについてアプローチするために、民生委員と事業所でどう協力していくか考えた結果、「土師あったかサロンアウトリーチ型相談会」を定期開催していくことが決まりました。

ボランティアが毎週水・木に自治会館で開いている土師あったかサロンに、土師近辺の事業所のメンバーが2か月に一回訪れ、コーヒーを飲んだり、地域住民と交流したり、相談に乗っています。この相談会を続けていくことで、まず、サロンに来られている住民と支援機関の専門職が顔見知りになることで、些細なことでも相談しやすくなる効果が見込まれます。地域包括支援センターを介さずとも、介護保険のことはケアマネジャーに、薬の不安は薬剤師に、悩みごとが軽いうちに各専門職に相談できることで、重度化防止が期待できます。

次に、サロンに来てくださっている住民が近隣で困っているかもしれない方を支援機関に繋ぐことで、地域に埋まっている「困りごと」を早期発見・解決する機能が見込めます。本当に困っている方は、相談先がわからないままどんどん深刻化していったり、当の本人はそれが困った状態だと気付いていなかったり、相談できない何らかの理由があります。そしてそのような人を、住民は近くで見えています。「たいへんやなあ」で終わるのではなく、土師あったかサロンで専門職に困っている方のことを伝え、声をかける勇気がない場合は、アウトリーチ型相談会のチラシをポストに入れていただくだけでも今後大きく変わると思います。

#### 【取組の成果】

取り組みを開始して1年ほどになりますが、ボランティアや土師の住民と事業所がどんどん親密になり、にこやかにあいさつを交わしています。そのような場面を見ると、地域包括支援センターとして住民と社会資源の一部である事業所とを結びつけることができたことを嬉しく思います。また、参加しているケアマネジャーが担当している引きこもりがちな方とあったかサロンに一緒に行くことで引きこもりを防いだケースや、ボランティアが気になっていた方を専門職相談に連れてきて早期に相談に乗ることができたケースもありました。その他地域の防災訓練に事業所も一緒に参加するなど、徐々に交流も増え、順調に専門職が地域に根付いていっていると感じます。

# 《障害分野》



テーマ：その他(ケアとレクリエーション)

# 『A.L.E』(Akebono! Lift! Enjoyment!) 堺あけぼの福祉会での移乗・介助用リフトを使った 実践とその目的

社会福祉法人 堺あけぼの福祉会 楽「あけぼの」  
理学療法士：中辻 雅利

## ●事業所・サービスの紹介

重度重複障害者の入浴とリハビリテーションを目的にした生活介護事業所です。  
さまざまな器具を使った介護や支援・レクリエーションを行なっています。  
「エンジョイ・リラックス・アクティブ・つながる」を合言葉に活動しています。

## ●発表の要旨

### 【取り組んだ課題】

当施設は重度重複障害者の健康と生活を支えるために、入浴とリハビリテーションを目的として2021年4月に開設した。介護負担軽減・利用者の事故防止のため、天井走行式リフトを開設時より設置している。リフトの認知度はスタッフ・利用者ともに低く、積極的な使用につながっていない現状がある。マイナスイメージをなくすために、リフトを使った運動やレクリエーションなどをスタッフ全員で行った。

### 【具体的な取り組み】

- ・利用者が楽しみながら身体を動かせるようにリフトを使用した。
- ・今までできなかった運動(歩く・走る・ジャンプ)を行い、自分でもできることを感じてもらった。
- ・大きいボールに座る。フィットネス機器を使うなど、健常者でも経験がないことを行った。

### 【活動の成果と評価】

やりたかったが、今までできなかったこと、できないと思っていたことを、リフトを使って行うことで「できる」喜びを感じてもらい、体を動かすことの楽しさを感じてもらった。また、スタッフも経験したことがないことを行うことで称賛を得ることが多くなり、利用者の笑顔が増えていったことがスタッフへも波及した。その結果、スタッフによるリフトを使ったレクリエーションや、リフトを使った介助の増加につながり、安心して入浴ができるようになった。

### 【今後の課題】

まだ、リフトに対する苦手意識・時間がかかると感じているので、継続的な研修の機会や説明が必要である。

### 【参考資料など】

若林美佐子,「A障がい者支援施設におけるリフト利用の満足条件」,美作大学・美作短期大学部紀要 2017;(62)31-40

テーマ：その他（意思決定支援）

# 「自分で決める、自分の未来」 ～自分の事は自分で決める、 その意思決定を尊重し、サポートします～

社会福祉法人 ライフサポート協会 はびな  
副主任：井上 真人

## ●事業所・サービスの紹介

「はびな」は、18歳以上の障害のある方々が利用しています。

- 一人ひとりの個性を大切にします。
- ご本人の強み（得意）を活かして社会との関わりをつくります。
- 自身の思いを相手に伝える方法について支援します。
- さまざまな経験を通して、好きなことをみつけ、生活を充実できるようにお手伝いします。

## ●発表の要旨

### 【取り組んだ課題】

毎月の行事企画を、ミーティング活動の時間にメンバーさん主体で決めてもらう支援。  
買物先等で、ご本人が注文・支払いができるような支援。

### 【具体的な取り組み】

ミーティング活動の時間に、ご本人がわかるように、絵カード等を使用し、行きたい店舗や  
食べたいメニューを自己選択、自己決定を自発的にしてもらった。  
店舗での注文は、ご本人から注文してもらうように筆談や絵カード交換式コミュニケーション  
システム（PECS<sup>®</sup>）を用いた。  
店舗への支払いも、ご本人が支払えるように視覚的にどの硬貨で支払うのかを提示した。

### 【活動の成果と評価】

ご本人の行きたい店舗へ行き、自発的に食べたいものを注文、支払いすることができた。  
活動の振り返りをする中で、「また行きたい」や「次はこれを注文したい」、「次はこんな  
店舗に行きたい」等の自発的な表出もあり、意欲に繋がった。  
さまざまなコミュニケーション手段（筆談・PECS<sup>®</sup>）をつかって注文することで、コミュニ  
ケーション手段の啓発にもなった。  
地域の店舗で購入することで、地域交流になった。

### 【今後の課題】

ご本人が、本当にしたいことをニーズとして発信していただけるような個別支援計画会議の  
開催と、どのような方法で会議に参加していただくのかを検討していきたい。

### 【参考資料など】

名川勝・水島俊彦・菊本圭一、日本相談支援専門協会（2019）「事例で学ぶ福祉専門職のための  
意思決定支援ガイドブック」中央法規

テーマ：創作的活動や生産的活動

## やる気・達成感・笑いを引き出す支援

社会福祉法人 堺あけぼの福祉会 紬「あけぼの」

生活支援員：柴田 正明

### ●事業所・サービスの紹介

紬「あけぼの」は、平成30年4月に開所。太陽の光が沢山入り、ワンフロアの明るい施設です。18歳から30代前半の利用者様33名が通う生活介護事業所です。毎日笑いが絶えないよう、全力で活動しています。「利用者様、職員共に笑って自宅に帰る」を方針に笑顔一杯活動しています。

### ●発表の要旨

#### 【取り組んだ課題】

- ・日々の活動や行事を通じて利用者様の「やる気・楽しみ・選択・決定」を見つけ出す。
- ・新しいイベントを発案し、マンネリ化しない日々を過ごす。
- ・利用者様の持っている力を見つけ出す。

#### 【具体的な取り組み】

- ・日々の活動では、活動内容を2～3のプログラムを作り自身の活動したいプログラムに参加していただく。
- ・新しいイベントを利用者様と考えテーマを決め準備段階から一緒に作り上げる。
- ・展覧会や詩、作文等を作り上げ応募する。

#### 【活動の成果と評価】

日々の活動では自主製品を作業する班、自主製品に使用する物品を購入する班、アルミ缶を納品する班等に分かれての活動を行い選択・決定を行っていただく事ができた。毎年テーマパークとしてイベントを開催しており、今年は紬水族館を開催した。イベントの看板、天井オブジェ、フォトスポットを一緒に作り上げる事ができた。絵画募集、詩の募集、作文募集に応募を行い、やる気を導き出す事ができた。

#### 【今後の課題】

現状に満足するのではなく、「常に職員が利用者様の為にどんなことができるのか」を考え続ける事が、利用者様の笑顔に繋がれると考える。今後も職員や利用者様が新しい取り組みを継続する環境を作り続けることで職員のスキルアップや施設全体の良さへ繋げていきたい。

テーマ：その他（外遊びと社会性の獲得）

# 外遊びと社会性の獲得 ～公園のルールに大人は立ち入れない!～

一般社団法人 CareOfficeNagata 重心型児童発達支援・放課後等デイサービスGREENHOUSE

看護師：長田 孝士

## ●事業所・サービスの紹介

当事業所では代表の医療的な資格と人脈を活かし、看護と療育、口腔内の清潔、遊びに力を入れています。営業曜日は火・水・木・土・日です。事業所は堺市のほぼ中央に位置しているので、送迎は堺市の広範囲が可能です。入浴サービスは毎日できます。

## ●発表の要旨

### 【取り組んだ課題】

識字率の高さと外遊びの時間の多さは、はっきりと関係しています。しっかりと身体を動かすことは感情・認知・学習・記憶に影響を与えます。重症心身障がい児（5歳男児：以下利用児）が身体を動かし、さまざまな年齢の他の子どもたちと接することで、いかなる経験を積むことができたかを考察します。

### 【具体的な取り組み】

事業所近辺は世界遺産百舌鳥古墳群です。利用児と散策しながら、世界遺産になった経緯を伝えます。また、古墳群内にはいくつも公園があり、近所の子どもたちもたくさんあつまります。利用児は公園で遊ぶことが大好きです。そして、遊具には個性があり、使い方も子どもたちが作った独特なルールが存在します。なるべく支援者はそのルールに介入せず、利用児には安全に遊具で遊んでもらい、他の子どもたちとコミュニケーションをとることができるかに取り組んでいきます。

### 【活動の成果と評価】

いつまでも遊具で遊びたい利用児は時間を気にしません。しかし、他の子どもたちは遠慮なく「もう時間やろ」と交代を迫ってきます。仕方なく一旦引き下がりましたが、待つ辛抱を経て、再度、遊具にたどり着きます。場合によっては「お兄ちゃん、変わって!」と交渉に臨みます。公園を立ち去る際には、「お兄ちゃんバイバイ!」と挨拶をしました。公園遊び3日目頃には定着し、ルールの獲得とコミュニケーション（会話・交渉）の深まりができたと考えます。

### 【今後の課題】

子どもたちは重症心身障がい児の身体的特徴を気にとめないで、逞しく遊べる反面、事故・けがにも留意しなければなりません。また、支援者は子どもたちの環境では出しゃばってはなりません、どうしても大人の顔色を見る子どもも存在します。そのディレンマが課題です。

### 【参考資料など】

EQこころの知能指数：ダニエル・ゴールマン バカのものさし：養老孟司



テーマ：その他（外出活動）

# 重度重複の方々の自己選択と 社会性向上についての取り組み

社会福祉法人 堺あけぼの福祉会 絆あけぼの  
生活支援員：谷口 東吾

## ●事業所・サービスの紹介

昼食は選択式を取っており、日中活動では週一回の外出活動を行い、活動内容をミーティングで決定する等利用者様の選択を大切にし、生き甲斐と社会的自立心を持って社会参加できるよう自己選択・自己決定できる場とし、外出活動を取り入れ社会性や自立心、自制心向上に努めている。

## ●発表の要旨

### 【取り組んだ課題】

利用者様とのミーティングを実施し、施設で取り組む内容や外出活動について一緒に考えて頂き、日中の活動や週一回の外出活動などを通して経験や活動・利用者様の興味や関心ごとを増やして頂き、心身共にリフレッシュをして頂くとともに社会性向上をめざす。

### 【具体的な取り組み】

外出先や調理実習の献立、弁当のメニューなど選択の必要なものは「ミーティング」を行い自己選択・自己決定をする。ミーティングでは「絵カード」や「写真」を用意し、利用者様に選択して頂き、決定して頂いている。  
その結果、やむを得ずご自身の意思に添えないことに対し理解して頂き社会性向上に努める。希望から外れた利用者様も新たに興味や関心を増やしていけるよう支援を行う。

### 【活動の成果と評価】

ミーティングカードは利用者様の個々に合わせ、選択しやすいよう提示するカード等の枚数を変更し、より正確に決定できるように支援を行っている。  
ミーティングの結果が希望からそれた場合でも、多角的な声掛けなどを用い興味を持ってもらうきっかけを作り、楽しんで頂いている。

### 【今後の課題】

ミーティングの結果に対し希望以外の場合でも、興味や関心を持てる事柄を普段から深く掘り下げ、ニーズを明確化しQOLや社会性の向上に努める。

テーマ：その他（利用者への支援について）

# 強度行動障害がある利用者様と EnjoyCommunication!

社会福祉法人 堺あけぼの福祉会 堺あけぼの園  
生活支援員：成山 裕悟

## ●事業所・サービスの紹介

1995年、身体障害者通所授産施設(旧法)として開所しました。現在、定員30名で主に重度重複障害がある利用者様が通所されておりますが、近年では知的障害（強度行動障害）がある利用者様も通所されております。日々の活動は、重度重複障害・知的障害がある方も参加できる仕事（軽作業）・レクリエーション活動を行っており、全体行事では季節行事や日帰り旅行などを行っております。

## ●発表の要旨

### 【取り組んだ課題】

- ・定員30名の大規模施設の中で、知的障害がある利用者様が来所されるようになり、重度重複障害がある方々の中で、過ごしていただける支援をさせて頂いておりましたが、特に知的障害の方で、強度行動障害の状態になられている方への支援方法を見出すことができませんでした。
- ・強度行動障害の状態の利用者様自身の施設内でのこだわり（ルーティン）が、通所を繰り返すたびに強くなられ、日中のタイムスケジュールを合わせることや集団で過ごすこと・活動への参加などが、難しくなってきたため、支援員内で、対応方法や日中でリラックスしつつ活動にも参加ができる方法を検討しました。

### 【具体的な取り組み】

- ・こだわりのルーティンを行われているときは、支援員の声掛けに対して、拒絶されてしまいますが、ルーティンをされている以外のタイミングで、声掛けや活動などの参加の促しを試みました。
- ・来所、退所時にご自身のこだわりに、長時間を要してしまう為、正面玄関からではなく、別の入り口から出入りするよう促しました。
- ・対象の利用者様の視覚・聴覚の敏感な特性を考慮し、パーティションで区切ったスペースで個別対応ができる環境を整備しました。また仕事は、本人様の得意な取り組みやすい作業を提供しました。
- ・活動は、集団で参加していただくのではなく個別で対応させていただき、また全体行事は、日々の過ごし方とは異なる為、こだわりは、見られない様子なので集団での参加を促しました。

### 【活動の成果と評価】

- ・こだわりに長時間を要していましたが、別の方法を提供することで、その際のこだわりを無くすことができました。
- ・定員30～40名の施設規模であります。個々の利用者様の障害特性に合わせて個別の活動スペースや得意な取り組みを提供することで、リラックスできることや活動意欲の向上に

繋げることができました。またリラックスされているタイミングでの声掛けや促しは、スムーズに受け入れることができいております。

- ・日々過ごして頂く中で、こだわりが少しずつ増えていってしまいますが、年間行事など、単発的に開催する全体行事には他の利用者様とも参加することができますので、集団生活の一部としてや多人数での楽しむといった機会を提供することができました。

#### 【今後の課題】

- ・リラックスすることができたり、個別での活動を意欲的に参加できる環境だとしても、利用者様の障害特性上、時間を重ねるにつれて、少しずつ新たなこだわりが出て、リラックスできることや活動を楽しむことが難しくなると思われます。利用者様が笑顔で気持ち良く過ごして頂くために、日々のご様子で変化が見られたなど、またどういった支援（声の掛け方）や環境整備、活動場所の提供をしていくかを支援員間で共有と話し合いを続けたいと思います。また利用者家族様や利用者様の関連事業所とも情報共有やいつでも相談していただける関係性の構築も継続して必要と思っております。

#### 【参考資料など】

- ・強度行動障害の定義

- 自分の体を叩いたり食べられないものを口に入れる、危険につながる飛び出しなど、本人の健康を損ねる行動。
- 他人を叩いたり物を壊す、大泣きが何時間も続くなど、周囲の人のくらしに影響を及ぼす行動。
- 上記の2つの行動が著しく高い頻度で起こるため、継続的に特別に配慮された支援が必要になっている状態。

（障害福祉の仕組みでは「障害支援区分の認定調査項目のうち行動関連項目において10点以上」を強度行動障害と言う）

- ※国立障害者リハビリテーションセンター 発達障害情報・支援センター  
強度行動障害支援者研修資料より

2024年度  
さかい福祉と介護の実践発表会 抄録

発行  
堺市 健康福祉局

長寿社会部 長寿支援課  
〒590-0078 大阪府堺市堺区南瓦町3-1  
TEL : 072-228-8347  
FAX : 072-228-8918  
E-mail : choshi@city.sakai.lg.jp

障害福祉部 障害支援課  
〒590-0078 大阪府堺市堺区南瓦町3-1  
TEL : 072-228-7411  
FAX : 072-228-8918  
E-mail : shoen@city.sakai.lg.jp